

【事業概要】

○北陸新幹線整備と富山駅周辺における鉄道の高架化の機会を捉え、旧JR富山港線(全長8km)をLRT化
(平成18年4月29日開業)

連続立体交差事業負担金 事業費33億円 国費16億円
○JR線をLRT化するために必要な施設の整備
(低床式車両、電気・信号設備、停留場の切下げ等)

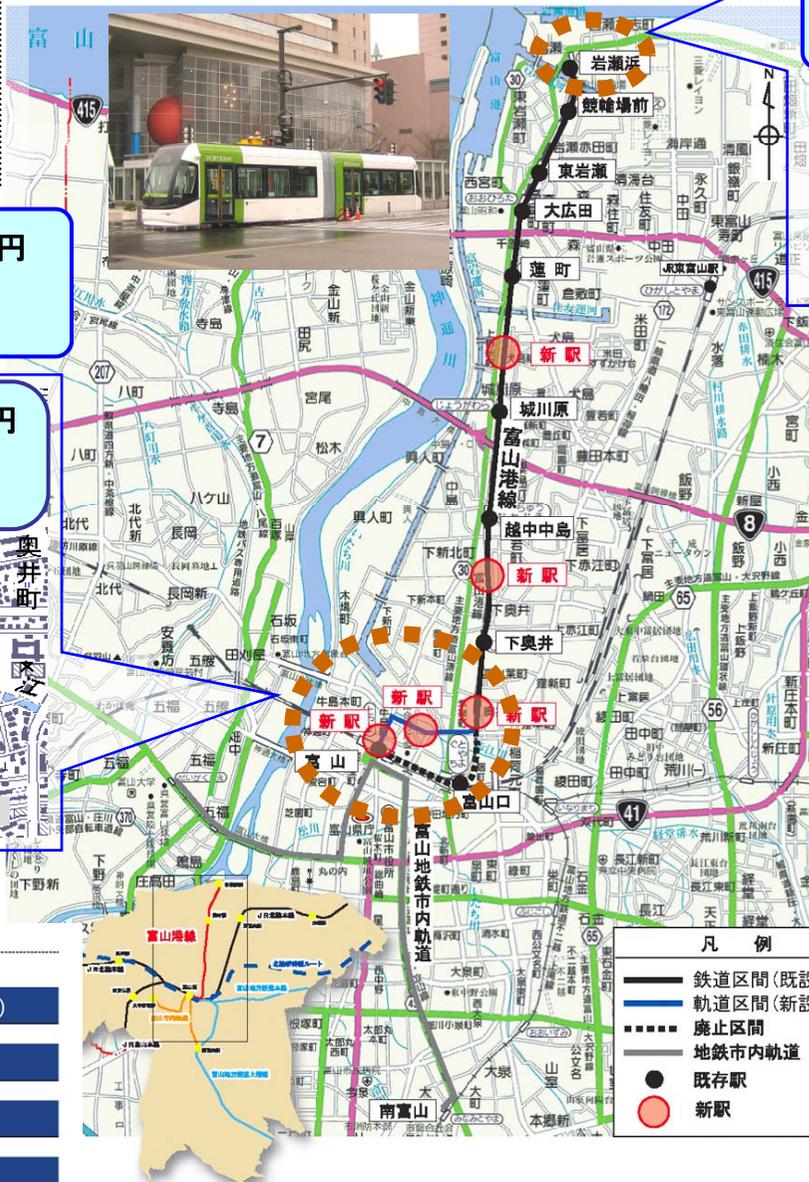
路面電車走行空間改築事業 事業費8億円 国費4億円
○走行路面・路盤の整備
○停留場の整備



■運行サービスの向上

	JR西日本運行時		富山ライトレール
運行間隔	30~60分	→	15分(ラッシュ時は10分)
始発・終電	5時台・21時台	→	5時台・23時台
駅数	9駅(富山駅除く)	→	13電停
車両	鉄道車両	→	全低床車両

運賃は200円均一制に。



幹線鉄道等活性化事業
事業費20百万円 国費4百万円
○バスとの乗り継ぎ円滑化



LRTシステム整備費補助
事業費7億円 国費1.75億円
○低床式車両(LRV)の導入
○新駅の整備
○制振レールの導入
○ICカードシステム



○ サービスレベルの向上 と 利用者の増加

○ 増便・パターンダイヤ化

JR富山港線

(平日・岩瀬派発) 上り出発時刻表

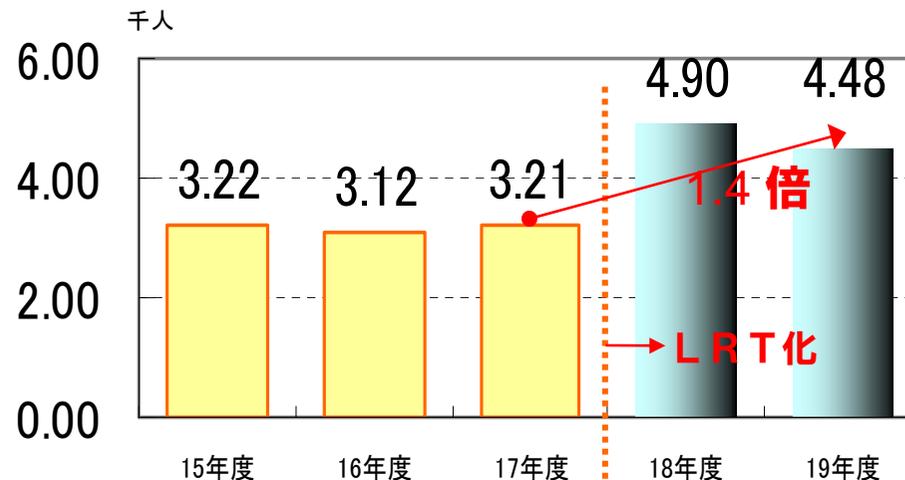
5			
6	17		55
7		27	
8	3		37
9		25	54
10	19		
11		37	
12			
13	25		
14	27		
15	27		
16		40	
17	22		54
18		37	
19	16	42	
20		35	
21			57
22			
23			

富山ライトレール

(平日・岩瀬派発) 上り出発時刻表

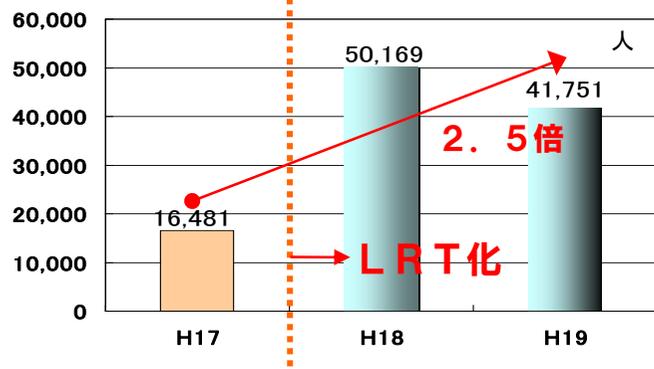
5			30			
6	0	22	39	49		
7	0	10	21	31	41	51
8	1	11	21	31	43	
9	0	14		31	46	
10	1	16		31	46	
11	1	16		31	46	
12	1	16		31	46	
13	1	16		31	46	
14	1	16		31	46	
15	1	16		31	46	
16	1	16		31	46	
17	1	16		31	46	
18	1	16		31	46	
19	1	16		31	46	
20		16			42	
21		12			42	
22		12			42	
23						

■ 富山港線一日あたりの平均利用者数



○ 沿線の商業・観光施設利用者の増加

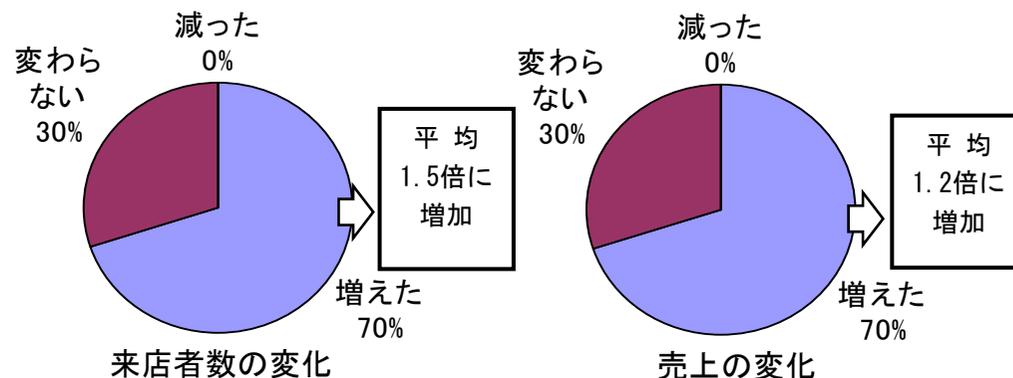
■ 森家※の年間利用者数



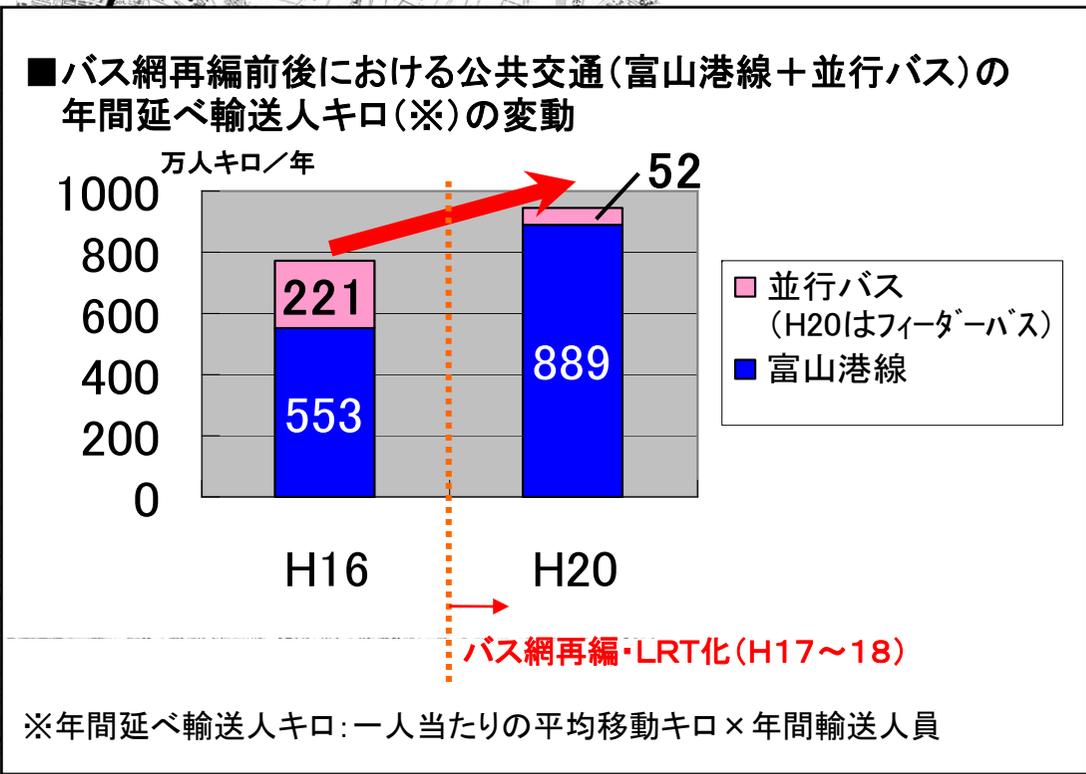
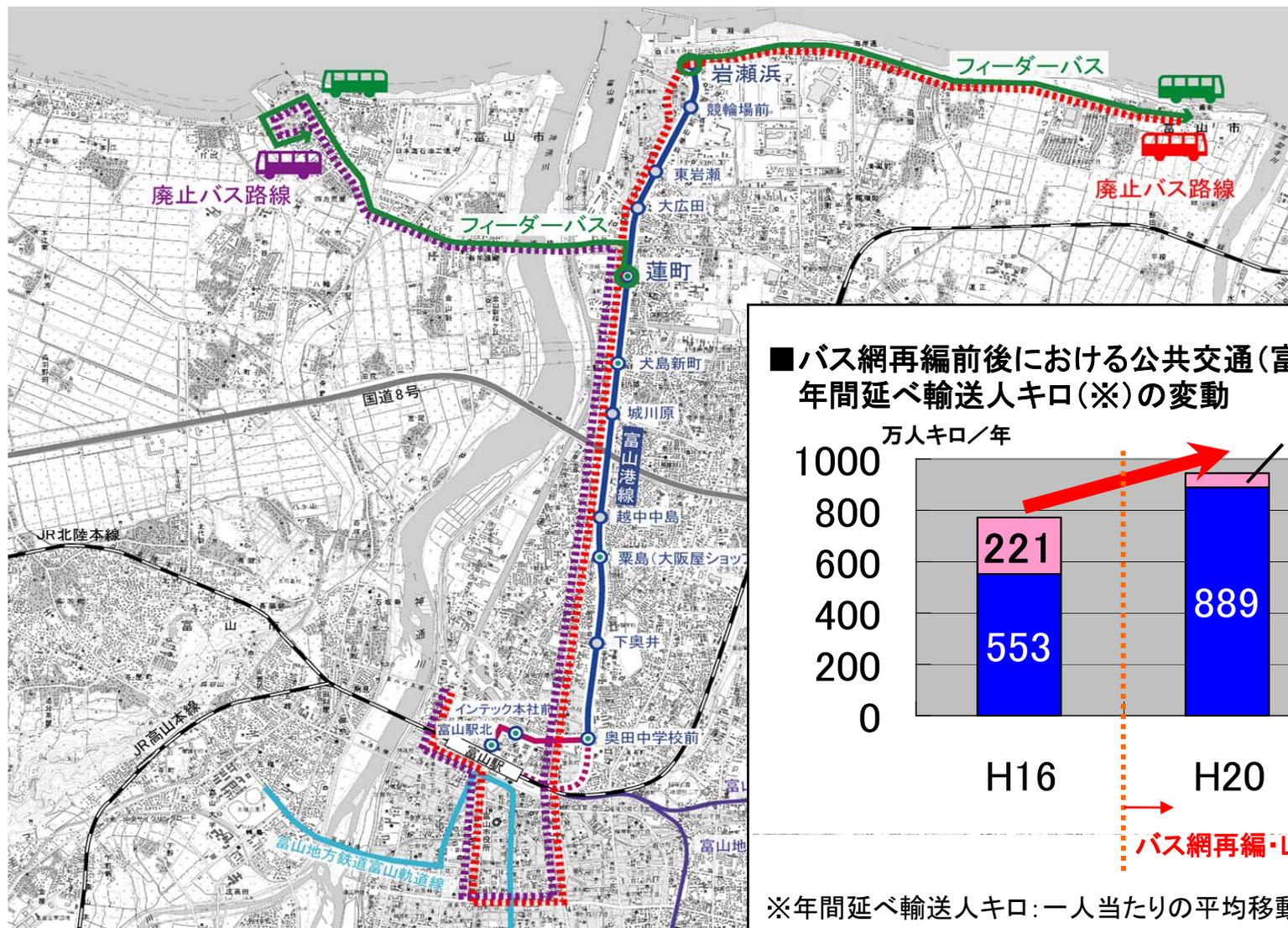
※森家: 富山ライトレール終点岩瀬浜にある観光施設(国指定重要文化財)

■ 沿線の小売業・飲食業10社からのアンケート結果

ライトレール開業前と開業1年後の比較



- 富山港線の輸送改善とともに、並行バス路線を再編・フィーダー化し、基幹交通と二次交通の役割分担を見直した結果、鉄道とバスの移動距離は全体で増加

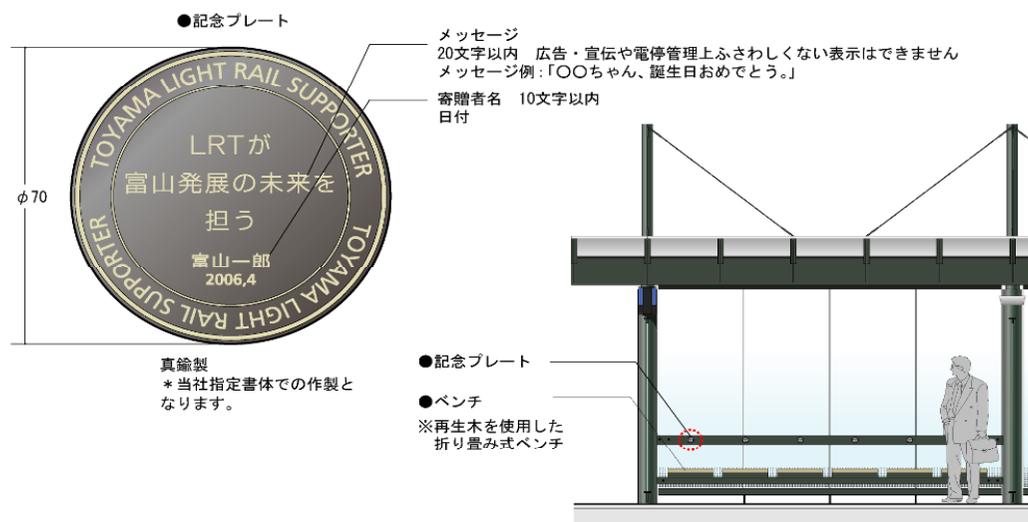


出典: 鉄道局資料及び富山地方鉄道からの聞き取りにより作成

沿線地域の企業・住民が「支える」意識を持つ仕組みを導入

○スポンサー付きベンチ

- ・スポンサー付きベンチの募集
1基5万円、168基



○駅の命名権、電停の個性化・広告スペース

- ・駅の命名権の販売
「インテック本社前」、「粟島(大阪屋ショップ前)」
- ・電停個性化スペース
電停内に、地域の個性を紹介するスペースを設け、地域の伝統や企業広告などを表現し、PRに使用。
(スペース数:富山駅北6面、その他駅2面)

